

地域通貨を活用した高齢者への生活支援と地域住民による地域貢献に関する研究

準会員 〇川島龍太郎*1 正会員 鈴木健二*2 同 友清貴和*3

6. 建築計画-99. その他

地域通貨, 高齢者, 生活支援, 地域貢献, 離島

1-1 研究の背景と目的

2000年4月に介護保険制度が始まり、高齢者への介護サービスが整備されてきている一方、同制度外の生活支援に対する要望も高まりつつある。その中で行政が提供する「公助」や市場が提供する「私助」を補うものとして、住民によるボランティアや相互扶助等の「共助」が重要視されている。そこで本研究では、共助の一つとして各地で導入が見られる地域通貨を取り上げる。特に私助はおろか公助すら整っていないと言われている過疎地域の事例を調査する事で、地域通貨が地域生活へ及ぼす影響や効果について明らかにする。

1-2 地域通貨の概要

地域通貨とは特定の地域内でのみ流通し、経済・環境・福祉・まちづくり等に関するサービスの互換的交換を媒介する通貨である。また兌換性が無く、参加者が独自の価値や名前を作り交換している点で、もう一つのお金として機能している。我が国では約400もの事例があると言われているが、都市部に比べると過疎部での事例は未だ少ない。

2-1 調査対象地域の概要

長崎県の離島である崎戸町(図1)の「さんさん」を対象とした。昔は炭鉱の町として栄え人口26000人を有していたが、閉山以降は過疎化が進み、平成17年4月からは周辺4町との合併により西海市となる。

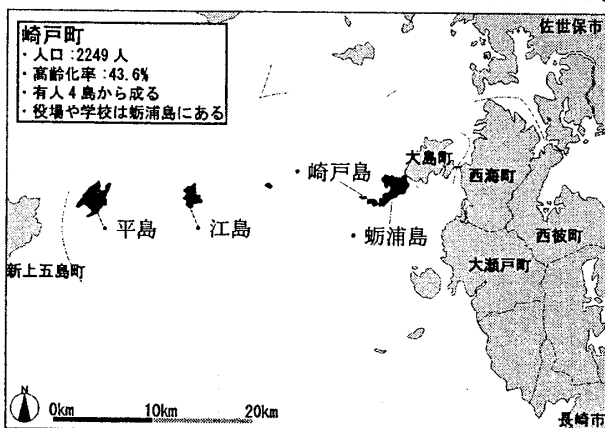


図1 崎戸町と周辺市町村の位置

2-2 地域通貨「さんさん」の概要

さんさんは町内のボランティア活動促進を目的として始まった。平成15年に町内で流通実験が行われ、継続の要望もあり平成16年4月から本格実施に至った。実験結果より平島・江島の住民はさんさんを特に必要としていなかったため、現在は蛸浦島・崎戸島内で流通している。さんさんには現在135名が参加しているが、殆どが60歳以上の高齢者である(表1)。仕事の内容は草刈りが大半を占めているが、家の内外を問わず様々なサービスのやりとりが見られる。コーディネーターと呼ばれる役職を配置し、仕事を「できる人」と「してもらいたい人」との仲介をしているのが特徴である。

表1 さんさんの利用状況

参加人数 (H16.10現在)		交換されたサービス内容 (H16.4/1~10/12)	
参加人数: 135名 (町民: 120名 / 長崎国際大学学生 15名)		家の外	
男女比		草取り	25
男性 33名	女性 87名	草刈り	16
		網戸の張り替え	9
年齢分布		花の水やり	5
65 2名	24歳	大工仕事	2
40 50	60	剪定	2
	70	病院の送迎	1
	80 歳代	家の中	
		掃除	11
		包丁研ぎ	8
		換気扇の掃除	2
		食事づくり	5
		障子張り	2
		縫い物	4
		家具の移動	2

※集計はさんさん運営委員会によるもの

3-1 調査・考察の概要

さんさん参加者20名(表2)を対象に、生活概要とさんさんの利用状況についてヒアリング調査を行った。調査結果から、してあげる事が多い参加者を「提供型」、してもらおう事が多い参加者を「依存型」と分類し、両者の視点から考察した。

表2 さんさん参加者の属性と分類(コはコーディネーターを示す)

No.	氏名	性別	年齢	崎戸居住年数	世帯形態	要介護度	してあげる率	コ
[No. 01]	US	女性	66歳	66年	独居	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 02]	UK	男性	62歳	5年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 03]	ST	男性	62歳	7年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 04]	YA	男性	70歳	33年	夫婦+娘	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 05]	HK	男性	66歳	6年	独居	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 06]	IM	男性	68歳	68年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 07]	HE	男性	63歳	16年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 08]	IN	男性	71歳	4年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 09]	YS	男性	82歳	82年	夫婦+娘	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 10]	KI	女性	72歳	16年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 11]	WA	女性	61歳	9年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 12]	NH	女性	75歳	25年	夫婦のみ	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 13]	HF	女性	81歳	16年	独居	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 14]	OY	女性	79歳	40年	独居	要支援	■■■■■■■■■■	○
[No. 15]	TK	女性	89歳	89年	独居	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 16]	TT	女性	83歳	23年	独居	要支援	■■■■■■■■■■	○
[No. 17]	MC	女性	74歳	50年	独居	要支援	■■■■■■■■■■	○
[No. 18]	TS	女性	79歳	79年	三世代7人	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 19]	HK	女性	78歳	30年	独居	-	■■■■■■■■■■	○
[No. 20]	KC	女性	74歳	37年	独居	-	■■■■■■■■■■	○

※20名の抽出はさんさん運営委員会によるもの

A study on community work of supporting elderly life and local contribution through the community currency

KAWASHIMA Ryutaro, SUZUKI Kenji, TOMOKIYO Takakazu

3-2 「依存型」の高齢者に対する生活支援

「依存型」の参加者8名の介護サービスとさんさんの利用状況を図2に示す。横軸は介護の要求度、縦軸は身体介護・生活援助の介護サービスとさんさん利用の関係性を表している。図より介護を必要とする程さんさんの利用頻度も高い事がわかる。しかしTKさんのように、家族が定期的に世話をしている事例においては、さんさんの必要性が低く利用が少なかった。身体状況や周囲のサポートの状況により、さんさんが果

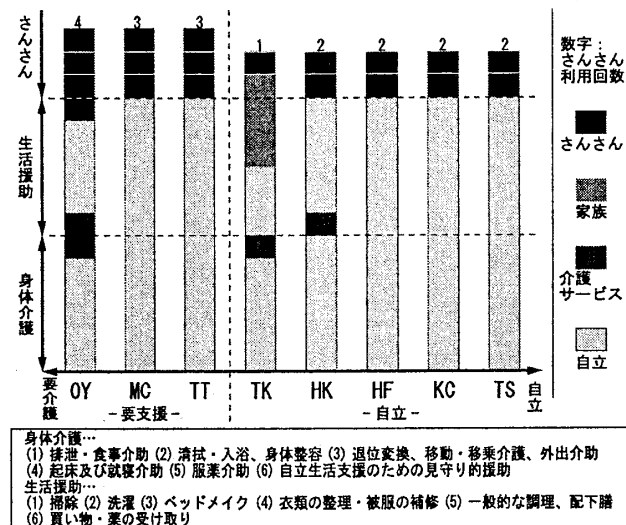


図2 介護サービスとさんさんの関係図

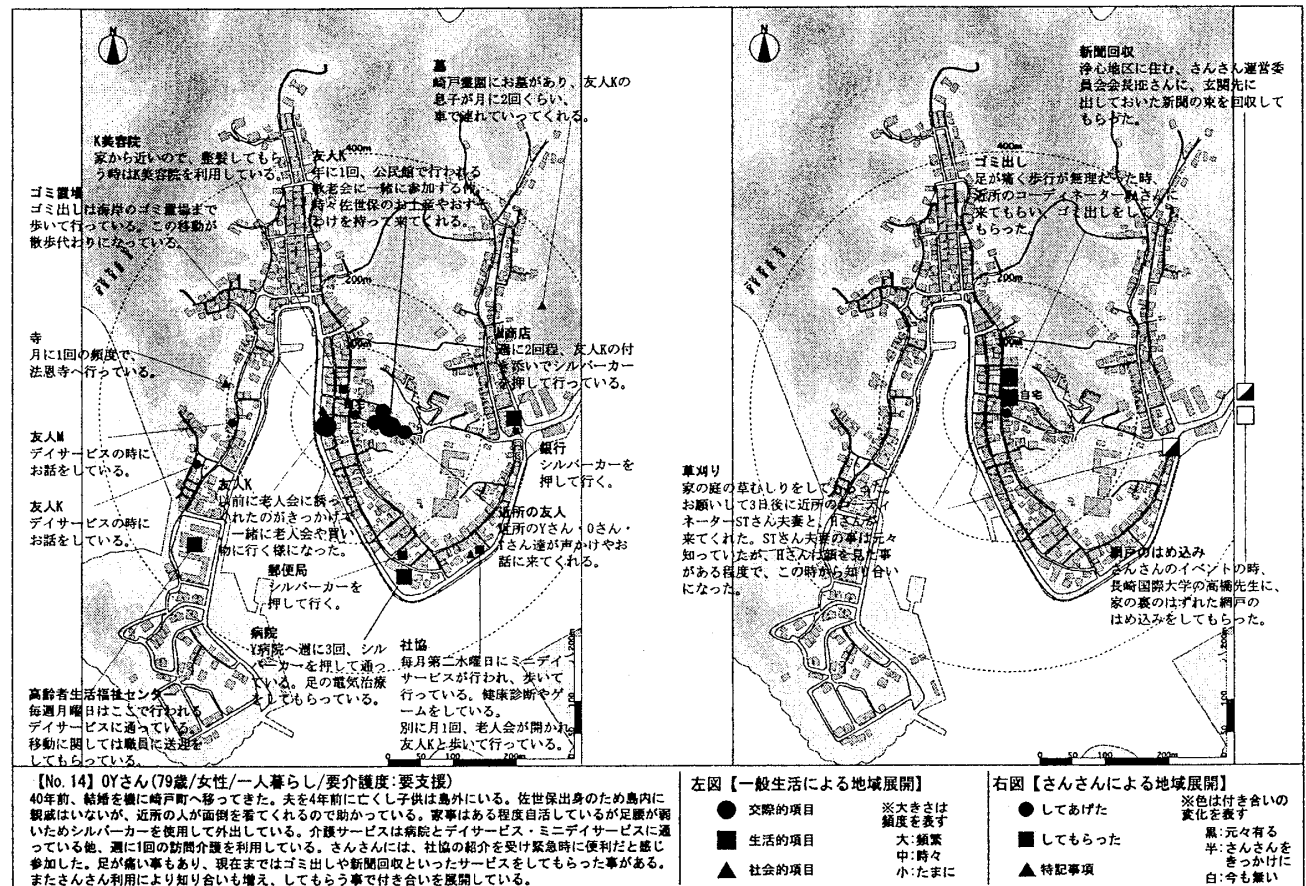


図3 OYさんの事例

たし得る役割が変わってくるものと考えられる。

図3にOYさんの生活展開を示す。OYさんは家事はある程度自立しているが、足腰を悪くしているため部屋の掃除をヘルパーにお願いしている。しかし草刈りや換気扇の掃除といった高齢者にとっての重労働は介護サービスでは対応出来ていない。そこでOYさんはさんさんを利用して介護サービス規定外の草刈りや網戸修理をしてもらっている。他の依存型の参加者も身体状況や必要性に応じて、足りない部分をさんさんで補っており、さんさんは介護サービスの領域外を付加的に補完しうる可能性を持っていると言える。

介護サービスは専門性が高い反面、時間や金銭の制約を受ける。OYさんは介護サービスの規定内だが、時間外に必要性が高いゴミ出しや新聞回収についてはさんさんにお願いしている。この事より、介護サービスとさんさんを併用する事で互いに不利点を補完していく事が可能であると考えられる。

3-3 「提供側」の高齢者による地域貢献

表2より「提供型」の参加者は60代に多く見られるがこの理由として、会社に勤めている人はさんさんに参加する時間が無い事、60歳前後に定年退職して

【No. 14】OYさん(79歳/女性/一人暮らし/要介護度:要支援)
40年前、結婚を機に崎戸町へ移ってきた。夫を4年前に亡くし子供は県外にいる。佐世保出身のため島内に親戚はないが、近所の人が面倒を見てくれるので助かっている。家事はある程度自活しているが足腰が弱いためシルバーカーを使用して外出している。介護サービスは病院とデイサービス・ミニデイサービスに通っている他、週に1回の訪問介護を利用している。さんさんには、社協の紹介を受け緊急時に便利だと感じ参加した。足が痛い事もあり、現在まではゴミ出しや新聞回収といったサービスをしてもらった事がある。またさんさん利用により知り合いも増え、してもらって付き合いを展開している。

左図【一般生活による地域展開】
● 実際の項目
■ 生活的项目
▲ 社会的项目
※大きさは頻度を表す
大:頻繁
中:時々
小:たまに

右図【さんさんによる地域展開】
● してあげた
■ してもらった
▲ 特記事項
※色は付き合いの変化を表す
黒:元々有る
半:さんさんをきっかけに
白:今も無い

まだ身体的にも元気なうちに地域への恩返しをしたいと考える参加者が多い事が挙げられる。参加者の中には、退職後に趣味が無く困っていたが、さんさんに参加してからは仕事をしてあげる事が趣味代わりになっている人がいる事も明らかになった。以上の事から、さんさんを媒介して仕事をしてあげる事は、身体的にも元気な高齢者が地域に労力を還元する契機となり、更には活動自体が高齢者にとっての生き甲斐となる可能性があると言える。

図4は提供型参加者の役職への参加状況を示したものであるが、提供型の参加者は様々な役職に就いている事がわかる。例えばHEさんはさんさん運営委員会会長や地区会長を担うだけでなく、他のボランティア活動やサークルにも参加している。提供型の参加者は元々ボランティア志向が強く、また地域から重要視されている存在である事が推測される。

その他	US	UK	ST	YA	HK	IM	HE	IN	YS	KI	WA	NH
施設管理												
交通指導												
福祉四団体※2												
煙竹会※1												
民生委員												
地区会長												

図4 提供型参加者の役職
※1...60歳以上の退職者により結成されたボランティア団体
※2...母子会・老人会・身体障害者福祉協会・手をつなぐ親の会

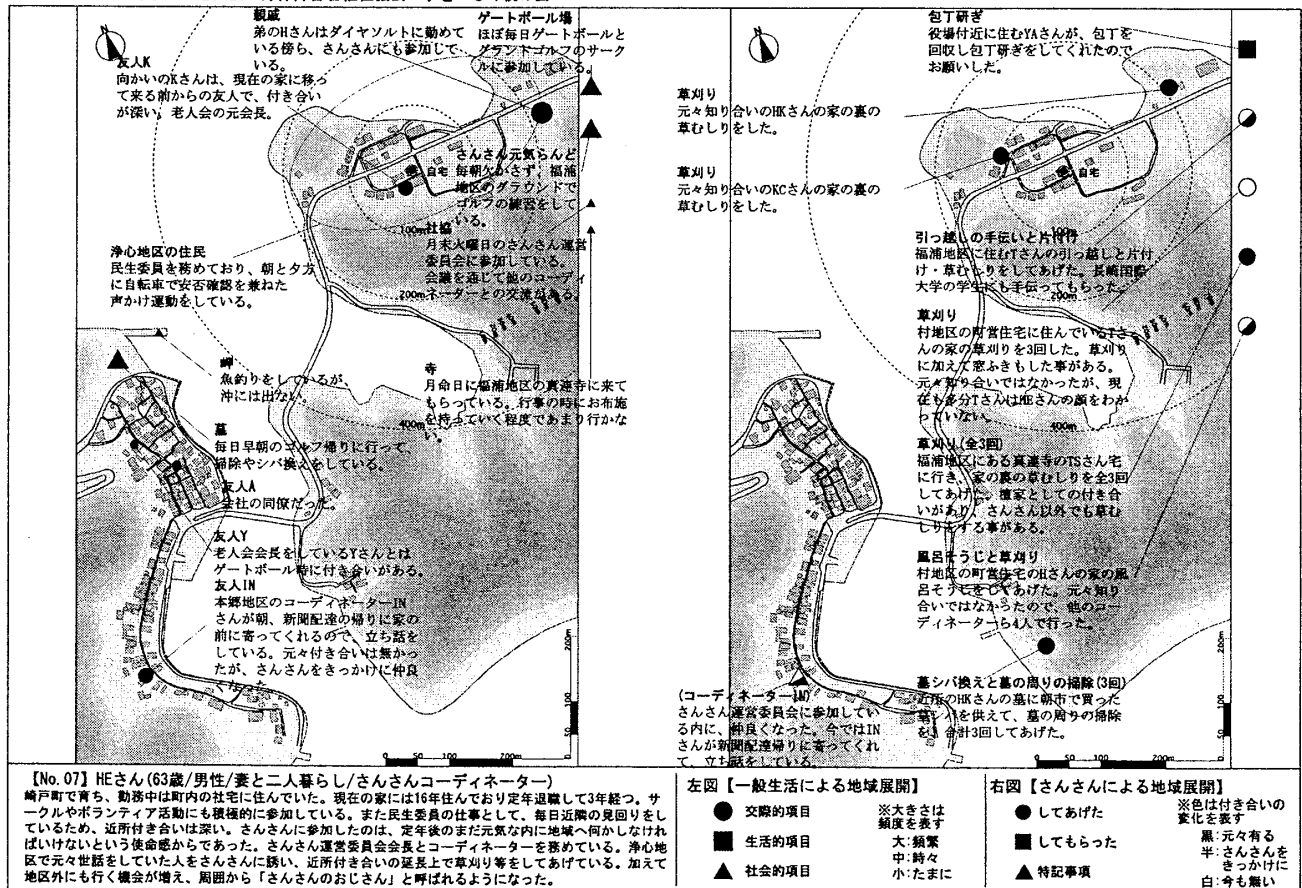


図5 HEさんの事例

3-4 付き合いの変化

次にさんさんを介した付き合いの変化について見ていく。依存型のOYさんは普段の交友が自宅周辺に留まっているが、さんさんを利用する事で地区外の人との交流が生まれており、新しく知り合いになるケースも見られる。提供型のHEさんはさんさんの仕事をするために自宅周辺を離れ、地区外で新たな付き合いを展開している。またHEさんはコーディネーターを務めているため月に1度の運営委員会に参加しているが、他のコーディネーターと毎朝、道端で世間話をする仲になる等、役職を超えた関係に発展しているケースも見られる。これらの事より、さんさんが地区を超えた付き合いの広がりをもたらし、新規の人間関係を築く契機として機能している事がわかる。

一方さんさんが始まる前から民生委員や地区会長に草刈りや台風時の世話をしてもらっていた参加者については、さんさんを利用する際に、普段の近所付き合いの感覚で知り合いのコーディネーターに仕事を依頼するケースも多く見られた。よってさんさんは、従来の顔見知り関係が基礎となって二次的に作用していくツールであると言える。

3-5 居住歴とさんさんの関係

地域の役職と聞くと、一般的に居住歴の長い人がその長さに比例して担うものと思われる。しかしさんさんでは居住歴が短い人でも役職に就き(図6)、崎戸町出身者と同様の働きを為している。図7の提供型HKさんは、35年ぶりに崎戸町に戻り居住歴も僅か6年だが、さんさんコーディネーターを初め、民生委員や地区会長等も務めている。2日に1回、母の看病で崎戸町を離れるため近隣への生活展開は少ないものの、さんさんに関わる事で付き合いが近隣に展開している。

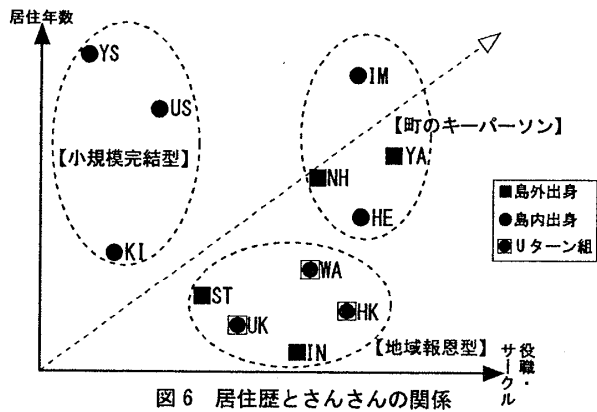


図6 居住歴とさんさんの関係

このように長く崎戸町を離れていた人、もしくは崎戸町外から移り住んで来た人にとっては、コーディネーターに就く事が新しい交際展開の契機となっている。

4 まとめ

本研究では崎戸町のさんさんの利用実態を明らかにする事で、「高齢者に対する生活支援」への有効性は勿論、サービス提供側の視点より「高齢者による地域貢献」という効果も見出す事が出来た。

一方で問題として、コーディネーターが本来の役割である仕事の仲介をせずに、自分で仕事をしてしまう傾向も明らかとなった。その結果、地域通貨が一部のコーディネーターに集中し地域全体の流通が滞る事で、地域全体の助け合いが一部に限られてしまっている。地域内のボランティアを最大限に活用するためにも、サービスの担い手をより多くの参加者に広げていく取り組みが必要になると考えられる。また若い世代の参加者が不足している事で、数年後のキーパーソンが見当たらない事も問題であろう。これらの問題を長期タームで解決していく事が今後の課題であると思われる。

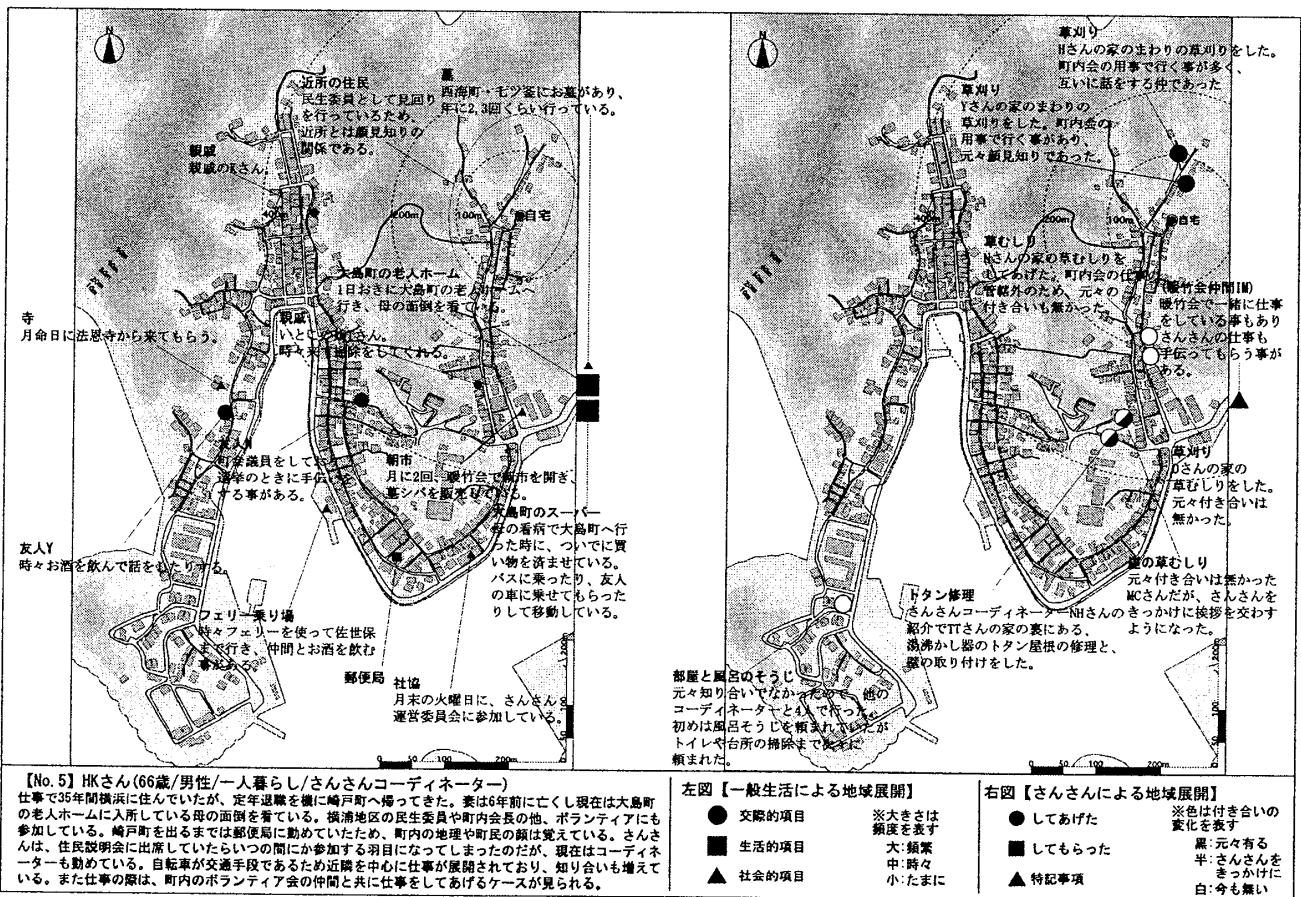


図7 HKさんの事例

- *1 鹿児島大学工学部建築学科
- *2 鹿児島大学工学部建築学科 助手・工博
- *3 鹿児島大学工学部建築学科 教授・工博

Faculty of Engineering, Kagoshima University
 Research Assoc., Faculty of Engineering, Kagoshima University, Dr. Eng
 Faculty of Engineering, Kagoshima University, Dr. Eng